



<いない、いないばあ>

赤ちゃんは、8～9ヶ月頃になると、ハイハイが上手になり、動きが活発になります。物陰から顔を出した時に、「ばあ！」と声をかけてあげると、とても喜びます。すると、今度は自分から物かげに隠れ、「ばあ！」と顔を出しては、大人と目が合うのを楽しむようになります。その後、何度も繰り返し隠れては、大人が自分のほうを見ていてくれるのを期待して、顔を出します。また、頭の上から薄いハンカチをかぶせて顔を覆っても、同じような反応を見せてくれます。ハンカチを自分で取っては、「ばあ！」と、笑顔を見せます。大人は、ついその笑顔が見たくて、何度もハンカチをかぶせてしまいます。両手で顔を隠し、「ばあ！」と顔を出す単純な動作も子どもは喜びますね。このように、“いない、いないばあ”は、親子のふれあい遊びとして、昔からずっと根付いています。

子どもは、今、その瞬間は見えなくても、次の瞬間にこんな場面が現れるということが予測できるようになるのです。だから物陰に隠れては、「お父さん、お母さん、私のこと見て！」と期待しながら満面の笑顔で顔を出すのです。そこには、お父さん、お母さんが、笑顔で待っていてあげることが欠かせません。大好きな大人とのやりとりは、子どもの心を揺さぶり、豊かにします。「お父さん、お母さんは、自分の思いに応えてくれる」という安心感を抱くようになるでしょう。

また、そうしたやりとりを楽しんだり、自分の意志で行動できるように、室内で十分ハイハイする空間を確保しましょう。

おもちゃを、自分で取りやすい場所に置いておくと、そこに向かって這って行くようになり、遊びへの意欲が引き出されます。家庭内に十分スペースが取れない場合は、乳幼児の遊び場（子ども家庭支援センター、児童館など）を利用した時に、ハイハイをたっぷりさせてあげてください。自分で、行きたいところにハイハイして行き、さらにその先の世界に期待を持てるような環境を保障してあげたいですね。



(文 ここすき！プロジェクト保育士)